

自転車通行環境整備モデル地区 の評価と今後の展開

道路研究部 道路空間高度化研究室

主任研究官 本田 肇 (室長) 高宮 進 (博(学術))

道路研究室

主任研究官 小林 寛 研究官 山本 彰 (室長) 上坂 克己 (博(工))

(キーワード) 自転車、自転車ネットワーク計画、交差点設計、ガイドライン



1.

安全・安心な社会の実現

1. 近年の自転車施策の背景・経緯

2008年に国土交通省と警察庁は、全国98地区を「自転車通行環境整備モデル地区」に指定し、自転車通行環境整備における課題の把握や対応策の検討を行ってきた。その後、2011年に「安全で快適な自転車利用環境の創出に向けた検討委員会」が設置され、委員会は、上記モデル地区での取り組みの評価・検証を実施するとともに、ガイドラインの作成を提言した。

国総研は、モデル地区における資料収集、集計作業を行い、委員会によるモデル地区での取り組みの評価・検証を支援した。

2. モデル地区での取り組みの評価・検証

モデル地区での評価・検証として、①自転車通行空間を部分的に整備するだけでは、整備効果が十分に発揮できないことから、ネットワークとして整備することが重要であること、②単路部と交差点部での接続において連続的かつ直線的な整備がなされず、整備された自転車通行空間が十分に活用されない事例が見られたことから、交差点において自転車通行空間の連続性や直進性が重要であること、などが判明した。そこで、ガイドラインにおける自転車ネットワーク計画の策定に関する考え方、交差点の設計方法に関する考え方などが提言された。

3. 今後の展開

国土交通省と警察庁では、委員会での提言に技術的な知見を加え、ガイドラインを作成し、公表する予定である。

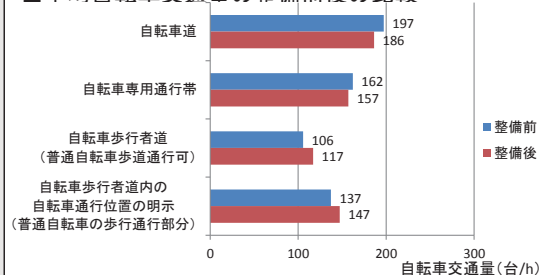
【参考文献】 (委員会HP)

<http://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-council/cyclists/index.html>

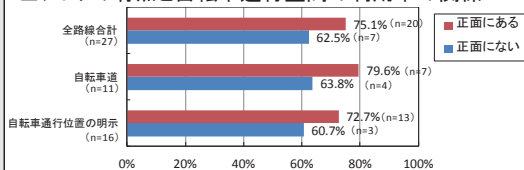
■モデル地区の指定路線位置(例)



■平均自転車交通量の整備前後の比較



■シフトの有無と自転車通行空間の利用率の関係



※ただし、検定(95%)の結果、統計的有意性は認められなかった
※自転車交通量(片側)自転車40台/h以下の路線を除外(国土交通省調べ)



横断帯が正面にある(シフトのない)路線 横断帯が正面にない(シフトのある)路線